RIETI BBLウェビナー

グローバル・インテリジェンス・シリーズ

“世界を動かすイスラエル”

～日本はどう向き合うべきか～

2020年11月30日

NHK 前エルサレム支局長
長崎放送局総括副部長
澤畑　剛

1990　　栃木県立栃木高校
1993　　東京外大アラビア語専攻、カイロ・パレスチナ語学留学、ヘブライ語学習

1998　　日本放送協会　入社
2004　　同　国際部
2007　　同　カイロ支局
2009　　同　ドバイ支局
2012　　同　報道局遊軍　エネルギー番組取材制作
2013　　同　国際部ニュースデスク
2014　　同　経済部記者
　　経済産業クラブ、エネルギークラブ、兜クラブ
2017　　同　エルサレム支局
2020　　同　長崎放送局ニュースデスク（8月末）

内容

“世界を動かすイスラエル”の執筆のねらい

“世界を動かすイスラエル”の概要

米大統領選結果を踏まえた中東情勢

質疑応答

日本はどう向き合うべきか（まとめ）

アラブボイコットからの離脱

ー　時代錯誤的なリスク判断の是正

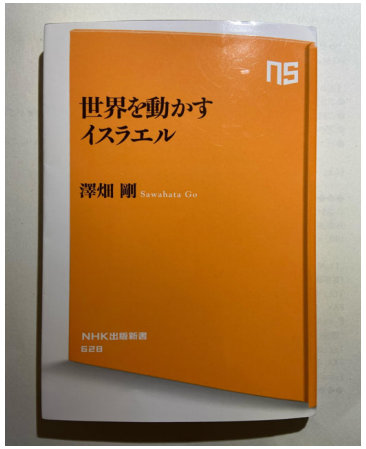
「ニュー中東和平」の取組み

ー　イスラエル＋アラブVSイランの緊張緩和に寄与、アブラ外交の重点に

横断的に中東を見る人材の育成

ー　官僚、ビジネスマン、学者、ジャーナリストの“中東通”は通用するか

“世界を動かすイスラエル”執筆のねらい

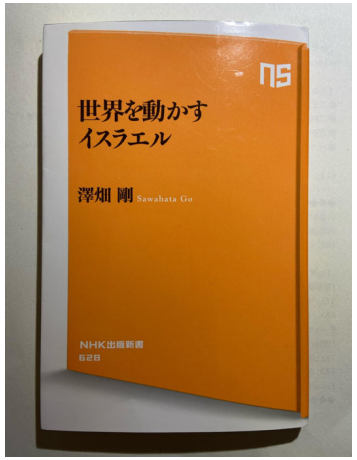


中東に関わる日本の人材は業界縦割りでバラバラ、知識・情報の横の共有が殆ど無い

（ビジネスマン、官僚、ジャーナリスト、学者、NGO）

中東で日本のビジネスマンが向き合うのはどんな人達か？

“世界を動かすイスラエル”執筆のねらい



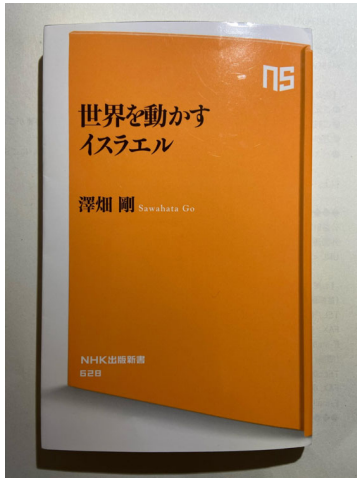
中東に関わる日本の人材は業界縦割りでバラバラ
知識・情報の横の共有が殆ど無い
（ビジネスマン、官僚、ジャーナリスト、学者、NGO）

・イスラエルのサイバー業者、予備役兵、対イランの実戦に参加、サウジと直接行き来

・イスラエルのハイテク業者、アメリカ経由で湾岸ビジネス実施中

従来の中東理解では対応が追いつかない状況に

“世界を動かすイスラエル”執筆のねらい



中東に関わる日本の人材は業界縦割りでバラバラ、知識・情報の横の共有が殆ど無い

（ビジネスマン、官僚、ジャーナリスト、学者、NGO） ex本屋

・イスラエルのサイバー業者、予備役兵、対イランの実戦に参加、サウジと直接行き来

・イスラエルのハイテク業者、アメリカ経由で湾岸ビジネス実施中

→中東の対立構図は100年に1度の変化

固定観念や感情論抜きで　横断的に中東情勢を見定める必要

追加すべきキーワードは 「イノベーション」「シェール革命」

「福音派」

今月22日、ネタニヤフ首相はサウジアラビア西部のNEOMを極秘訪問し、米ポンペイオ国務長官の仲介でムハンマド皇太子と初会談。NEOMは脱石油改革の目玉のスマートシティ。３人はバイデン政権の誕生前に、対イラン軍事作戦を協議したという憶測もある。

イスラエル：福音派のトランプ政権の間に、サウジアラビアと国交正常化したい。
宿敵イランを抑え込みたい。そのために自国のイノベーションを外交武器に。

サウジアラビア：シェール革命で原油安が続き財政難。脱石油改革のためにイスラエルの
イノベーションを取り込みたい。皇太子は国王就任にはアメリカの承認が必要。

アメリカ：ポンペイオ国務長官は敬虔な福音派、対イラン強硬派、４年後の共和党大統領候補？

イラン：　バイデン政権誕生を歓迎し、制裁解除を期して“戦略的忍耐“続ける

今月22日、ネタニヤフ首相はサウジアラビア西部のNEOMを極秘訪問し、米ポンペイオ国務長官の仲介でムハンマド皇太子と初会談。NEOMは脱石油改革の目玉のスマートシティ。３人はバイデン政権の誕生前に、対イラン軍事作戦を協議したという憶測もある。

イスラエル：福音派のトランプ政権の間に、サウジアラビアと国交正常化したい。

宿敵イランを抑え込みたい。そのために自国のイノベーションを外交武器に。

サウジアラビア：シェール革命の原油安で財政難。脱石油改革でイノベーションを取り込みたい。

皇太子は国王就任にはアメリカの承認が必要。反イランでイスラエルと共闘関係。

アメリカ：ポンペイオ国務長官は敬虔な福音派、対イラン強硬派、４年後の共和党大統領候補？

イラン：　バイデン政権誕生を歓迎し、制裁解除を期して“戦略的忍耐“続ける

世界を動かすイスラエル　目次

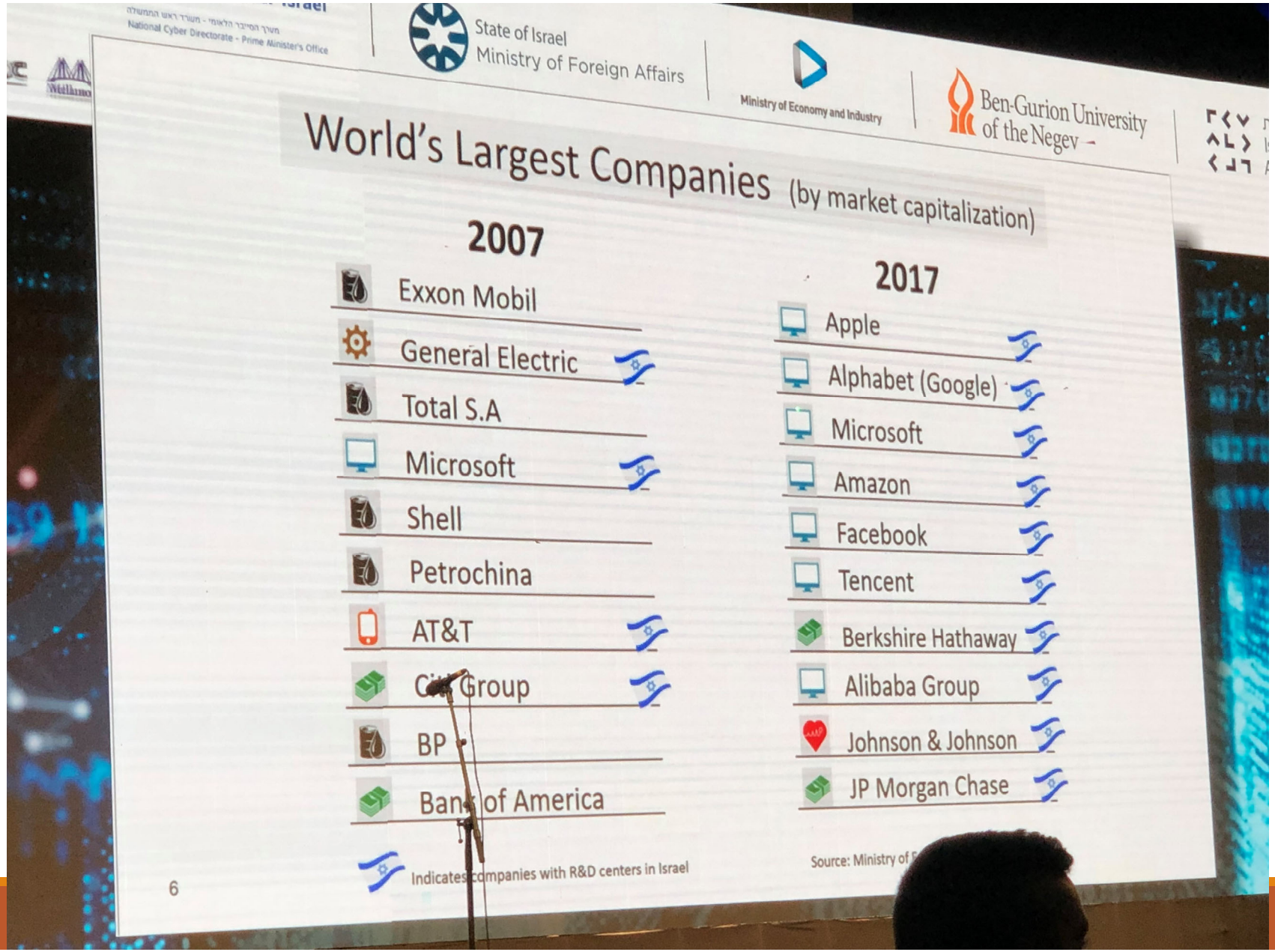
序章
自滅となったアラブの春
第1章
イスラエル、イノベーションの春
第2章
エルサレムに向かうアメリカ福音派
第3章
「ラスボス」イランとの確執
第4章
トランプとネタニヤフ
第5章
中東情勢を揺るがす原油価格
第6章
イラン危機
第7章
中東ドローン戦争の時代へ
第8章
ネタニヤフのサバイバル
終章
イスラエル、中東、アメリカの未来

世界を動かすイスラエル　目次

序章
自滅となったアラブの春
第1章
イスラエル、イノベーションの春
第2章
エルサレムに向かうアメリカ福音派
第3章
「ラスボス」イランとの確執
第4章
トランプとネタニヤフ
第5章
中東情勢を揺るがす原油価格（シェール革命）
第6章
イラン危機
第7章
中東ドローン戦争の時代へ
第8章
ネタニヤフのサバイバル
終章
イスラエル、中東、アメリカの未来

第1章　イスラエル、イノベーションの春

CYBERTECH2019
Benjamin Netanyahu
Prime Minister of Israel


National Cyber Directorate - Prime Minister's Office
State of Israel
Ministry of Foreign Affairs
Ministry of Economy and Industry
Ben-Gurion University of the Negev
World's Largest Companies (by market capitalization)
2007
Exxon Mobil
General Electric
Total S.A
Microsoft
Shell
Petrochina
AT&T
Group
BP
of America
2017
Apple
Alphabet (Google)
Microsoft
Amazon
Facebook
Tencent
Berkshire Hathaway
Alibaba Group
Johnson & Johnson
JP Morgan Chase
Indicates companies with R&D centers in Israel
6

第1章　イスラエル、イノベーションの春

ベンヤミン＝ネタニヤフ（71歳）の役割

第1次ネタニヤフ政権（1996～99）

国営軍需企業の民営化　ex カプセル内視鏡（誘導ミサイル技術）

ネタニヤフ財務相（2000年初頭）

サイバーセキュリティ技術を民生転用

第2次ネタニヤフ政権（2009年～現在）

モビリティなど推進し「スタートアップ・ネーション」に

第1章　イスラエル、イノベーションの春

なぜアメリカに依存せず、自前で軍事技術を開発するのか？

第1章　イスラエル、イノベーションの春

なぜアメリカに依存せず、自前で軍事技術を開発するのか？

１９５６年の第２次中東戦争：アメリカから停戦圧力を受けた苦い教訓

→アメリカに秘密裏に核開発「安全保障は他国に絶対に委ねない」

１９７３年の第４次中東戦争：奇襲を受けて序盤は敗戦を重ねて

武器と弾薬の不足に苦しんだ

→軍需産業の自給自足へ、食料の自給自足も

第1章　イスラエル、イノベーションの春

イスラエルのハイテク企業3社

・サイバーセキュリティA社：実戦

・ネタフィム社（農業）：点滴灌漑技術の応用へ

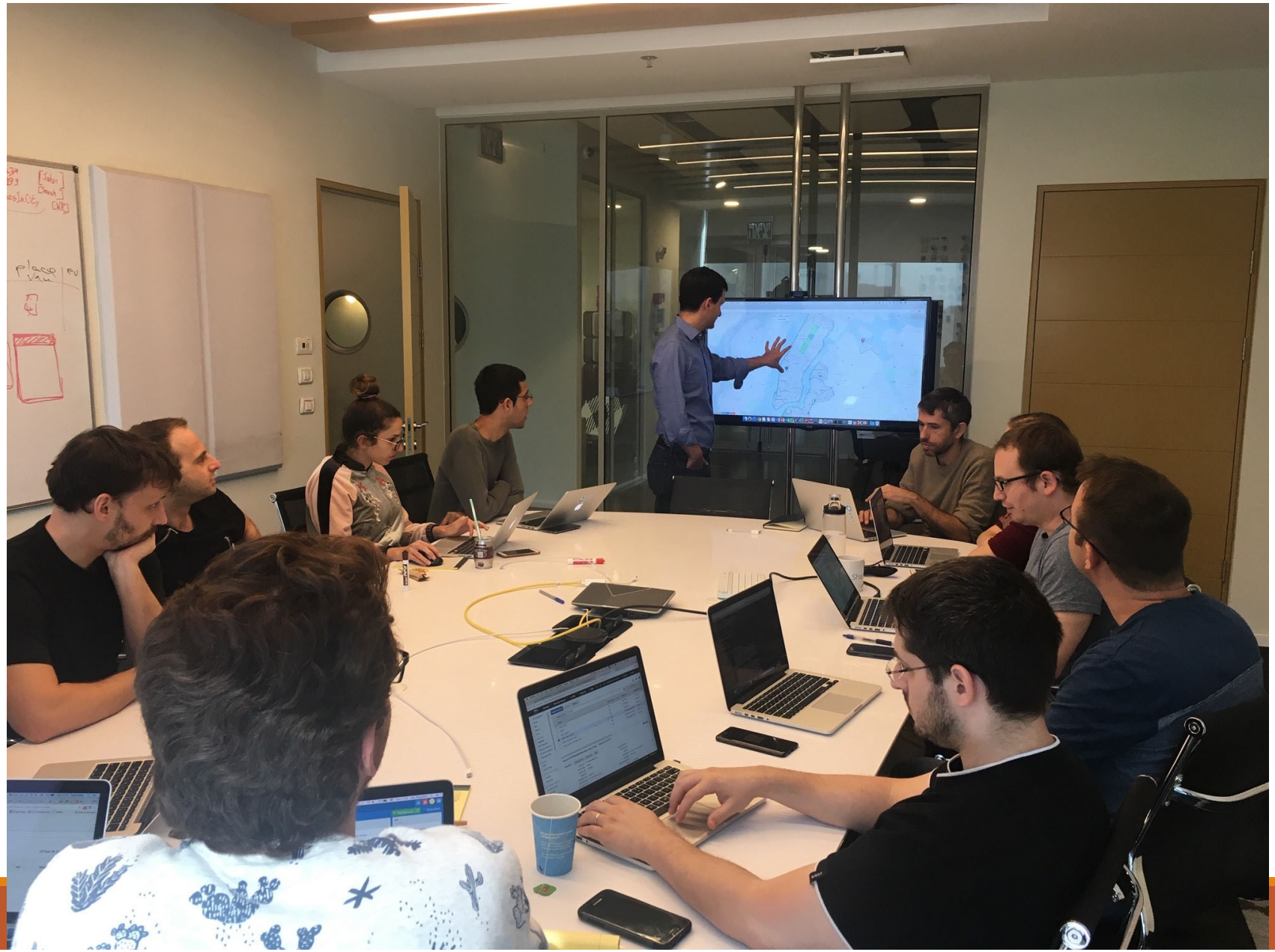
・Via 社（ライドシェア）：R＆Dはテルアビブ、市場はNY

Cyber Israel
State of Israel
Ministry of Foreign Affairs
Ministry of Economy and Industry
Ben-Gurion University of the Negev
Israel Innovation Authority
CYBERTECH TEL AVIV 2019
THE GLOBAL EVENT FOR THE CYBER INDUSTRY

סייבר ישראל
Cyber Israel
National Cyber Directorate - Prime Minister's Office
State of Israel
Ministry of Foreign Affairs
Ministry of Economy and Industry
Ben-Gurion University of the Negev
The Israeli Cyber Security Industry
Exports in 2018: over $5 billion
Investments in 2018: over $1 billion (+22%)
Cyber security companies: +500

המוסד מגייס.
אולי אותך?
המוסד למודיעין
ולתפקידים מיוחדים
TREND MICRO
Securing Your Connected World
optimized, connected security solutions
your connected world
www.trendmicro.com
INTSIGHTS

FERTIKIT
NETAFIM



第1章　イスラエル、イノベーションの春

なぜ、いきなりNYに進出できるのか？

→世界最古のグローバル民族、ユダヤ人ネットワーク

→逆境の環境が生み出す「尖った人材」と「尖った技術」

出遅れる日本企業

日系企業　2013年25社　2018年70社↑

投資額　　2012年2億円　2017年1300億円↑

ところが、、

出遅れる日本企業

日系企業　2013年25社　2018年70社↑

投資額　　2012年2億円　2017年1300億円↑

ところが本社に問い合わせるとイスラエル進出を認めない企業や

開業セレモニーで取材を拒否する企業も

なぜか？

出遅れる日本企業

日系企業　2013年25社　2018年70社↑

投資額　　2012年2億円　2017年1300億円↑

ところが本社に問い合わせるとイスラエル進出を認めない企業や

開業セレモニーで取材を拒否する企業も

70年代のオイルショックで痛い目にあった高齢の経営層がアラブボイコットのトラウマを

ひきずっているため

（参考例）

2017年11月、JOIN＝海外交通・都市開発事業支援機構はイスラエル政府と協力の覚書締結。

当時社長の波多野琢磨氏は元駐UAE大使

波多野氏「中東のルール・オブ・ゲームは変わった。大使時代にアラブの大義が建前に変化していることを肌で感じていた。日本企業はイスラエル進出で中国・韓国の後塵を拝している。アラブボイコットという古い思考にとらわれていたらビジネスチャンスを縮めてしまうので、現実主義になってイスラエルビジネスに向き合うべきだ」

第2章　エルサレムに向かうアメリカ福音派

第2章　エルサレムに向かうアメリカ福音派

トランプ政権からイスラエルへの「棚ぼた」リスト

アメリカ大使館のエルサレム移転

エルサレム首都認定

UNRWA＝国連パレスチナ難民救済事業機関への支援停止

イラン核合意からの離脱

「反イスラエルの」ユネスコからの離脱

占領地ゴラン高原をイスラエル領と容認

国際法違反の入植活動の容認

世紀の和平案で入植地をイスラエル領と容認

イスラエル・UAE国交正常化

イスラエル・バーレーン国交正常化

イスラエル・スーダン国交正常化

トランプ大統領だから？

第2章　エルサレムに向かうアメリカ福音派

トランプ政権からイスラエルへの「棚ぼた」リスト

アメリカ大使館のエルサレム移転

エルサレム首都認定

UNRWA＝国連パレスチナ難民救済事業機関への支援停止

イラン核合意からの離脱

「反イスラエルの」ユネスコからの離脱

占領地ゴラン高原をイスラエル領と容認

国際法違反の入植活動の容認

世紀の和平案で入植地をイスラエル領と容認

イスラエル・UAE国交正常化

イスラエル・バーレーン国交正常化

イスラエル・スーダン国交正常化

むき出しの選挙戦略＋

キリスト教福音派の影響力

TRUMP
TRUMP

TRUMP
IS A
FRIEND
OF ZION
TRUMP

foz
מוזיאון
ידידי ישראל
FRIENDS OF ZION
MUSEUM
TRUMP
MAKE
ISRAEL
GREAT
93-741

נתניהו.
ליגה
אחרת.
הליכוד
תחנה מרכזית
Central Station
BARAM
ALEM GATE HOTEL

PSAGOT

第2章　エルサレムに向かうアメリカ福音派

「パレスチナという国は歴史上存在しないので、パレスチナ人は隣国ヨルダンに引き取ってもらおう」
（違法な入植地のブドウ作業を手伝うアメリカ福音派ボランティア団体の代表）

「昔、ガイドした米福音派の人が、アメリカ大統領の側近になる日が来るなんて思ってもみなかった」
（1980年代から、米福音派団体との交流を続けているイスラエル入植地の交流団体代表）

アメリカの福音派は、草の根レベルで、イスラエルの極右勢力との結びつきを強めてきた

トランプ大統領からネタニヤフへの「棚ぼた」政策はこうした支持層のトレンドに沿ったもの

米大統領選挙結果を踏まえた中東情勢

～バイデン新政権で中東はどうなる？～

バイデン新政権で中東はどうなる？(まとめ)

「立つ鳥跡は濁さず」の真逆のトランプ大統領

「最もイスラエル寄り」から「最も存在感の薄い」米大統領に

パリ協定は復帰しても、イラン核合意の復帰は険しい道のり

シェール開発は止めず原油安が続き、アラブは一層弱体化へ

イスラエル・アラブ国交正常化のトレンド続く（ただ、サウジアラビアは最後に正常化か）

イスラエル＋アラブ VS イラン 紛争リスク　↑↑

バイデン新政権で中東はどうなる？

アメリカ・バイデン政権

最優先はコロナ・経済対策
環境政策は再起動へ
シェール開発は現状維持か

→トランプ大統領が塗り替えた中東政策の修正は後回しに

バイデン新政権で中東はどうなる？

アメリカ・バイデン政権

後回しの中東政策で、どこまで中東情勢を巻き戻せるか？

パリ協定は復帰してもイラン核合意の復帰は難しいか

なぜ？

バイデン新政権で中東はどうなる？

アメリカ・バイデン政権

後回しの中東政策で、どこまで中東情勢を巻き戻せるか？

パリ協定は復帰してもイラン核合意の復帰は難しいか

理由：ねじれ議会に加えて、この4年で拡大した溝、
　イスラエル・サウジアラビアの連帯した横やり

バイデン新政権で中東はどうなる？

トランプの置き土産

「立つ鳥、跡を濁さず」の真逆の行動

イラン追加制裁、対イラン軍事攻撃リスク

→腹いせか、４年後に向けた選挙戦略か

→2021年1月20日の新大統領就任式まで

　中東情勢は予断を許さず

バイデン新政権で中東はどうなる？

イスラエル・ネタニヤフ首相

アメリカのイラン核合意復帰：サウジアラビアと連携して徹底して妨害へ

「対米関係の冷却化は避けられない。だがバイデンはオバマより与しやすい。
オバマ政権時代はバイデン副大統領がネタニヤフとのパイプ役だった」
（エルサレムポスト編集長）

バイデン新政権で中東はどうなる？

イスラエル・ネタニヤフ首相の政治リスク

・自らの汚職裁判の本格化

年明けから週に2～3回は出廷

→世論調査は底堅い、政権基盤は安泰

・焦点は次の総選挙（おそらく来年）

ガンツ国防相との首相職ローテーション協定は反故へ

→リブニ元外相とアイゼンコット前参謀総長の新党台頭か

トランプの選挙支援無しで乗り切れるか

バイデン新政権で中東はどうなる？

イラン

アメリカのイラン核合意復帰への期待と不安

イラン大統領選は2021年6月

→成果を焦るためか、態度軟化の兆候も

バイデン新政権で中東はどうなる？

イラン・ロウハニ政権

（従来）アメリカは無条件でイラン核合意に復帰し、イラン制裁を解除すべし

（最近）「アメリカが制裁解除すれば、イランは核合意を遵守する」「これは政府レベルを超えた考えだ」

バイデン新政権で中東はどうなる？

イランが譲れないもの

・核開発の権利（イスラエルは核保有国）

・この4年でイラク、シリア、イエメンで確立したイスラエル包囲網

→バイデン政権も譲れず交渉の難航は避けられない

バイデン新政権で中東はどうなる？

サウジアラビア

バイデン政権との関係悪化は避けられず
CIAはカショギ氏殺害事件のリポート公開に踏みきり、
サウジ政府の人権問題を批判し、王位継承も危ないか？

→すでにバイデン側と水面下で接触し、「確証」を獲得か

バイデン新政権で中東はどうなる？

サウジアラビア

対イラン政策
イスラエルのイラン直接攻撃の支援も
2013年イラン核合意暫定合意は「アラブの春」の混乱中に締結
→イスラエルと連携、バイデン政権のイラン核合意復帰を妨害へ
G20議長国後に加速か

バイデン新政権で中東はどうなる？(まとめ)

「立つ鳥跡は濁さず」の真逆のトランプ大統領

「最もイスラエル寄り」から「最も存在感の薄い」米大統領に

パリ協定は復帰しても、イラン核合意の復帰は険しい道のり

シェール開発は止めず原油安が続き、アラブは一層弱体化へ

イスラエル・アラブ国交正常化のトレンド続く（ただ、サウジアラビアは最後に正常化か）

イスラエル＋アラブ VS イラン 紛争リスク　↑↑

日本はどう向き合うべきか（まとめ）

アラブボイコットからの離脱

――時代錯誤的なリスク判断の是正

「ニュー中東和平」の取組み

――イスラエル＋アラブVSイランの緊張緩和に寄与、アブラ外交の重点に

横断的に中東を見る人材の育成

――官僚、ビジネスマン、学者、ジャーナリストの“中東通”は通用するか